

「株式会社 姫路シティFM21」

第 68 回 放送番組審議機関 審議会議事録

1. 開催日時 平成28年10月1日(土曜日) 午後1時30分～午後3時

2. 開催場所 イーグレひめじ地下2階 ミーティングルーム

3. 出席状況

1)委員総数 7名

2)出席委員数 5名

3)出席委員の氏名(敬称略、順不同)

大井 義雄 大谷 昭仁 大野 幸一
岸田 直美 衣笠 愛之

4)欠席委員の氏名(敬称略、順不同)

岩田 稔恵 宮本 節子

5)会社側出席者氏名

寺尾 雅晴 (専務取締役 放送局長)
石本 康二 (常務取締役 営業部長)
小幡 博 (営業企画課 課長)

4. 議題

1) 事務局説明

- ・ 放送局長より挨拶

2) 資料説明

- ① 平成28年7月～平成28年9月の取り組みについて
- ② 平成28年10月以降の取り組みについて
- ③ その他

3) 試聴

- ① 気象警報発表にともなう防災放送
 - ・ 放送日 2016年9月19日(日) 午前1時25分頃～、午前2時15分頃～各10分を抜粋
- ② マイプレシャスタイム
 - ・ 放送日 2016年9月26日(月) 午後7時～午後8時より冒頭15分を抜粋

4) 意見交換

- (A) 委員 佐用の水害のときにテレビで被害を見てすぐに知り合いやJAなどと協力して炊き出し等の支援をさせてもらった。姫路市の支援は3日後だった。JAは食料をあつかっている組織なので、より緊密な関係を作ることができるのではないか。
- (B) 委員 情報の収集手段としても有用だ。
- (A) 委員 防災意識の高さを営業に結び付けることができればよい。残業手当は出ているのか？
- 放送局長 スタッフには出ている。役員には出ない。
- (A) 委員 災害が起これば起こるほど苦しくなるのではないか？
- 放送局長 熊本のFMの場合、発災3日間は5人体制で回っていたそうだ。
- (A) 委員 役員だから手当がないというのはいかがなものか。役員のなり手がなくなるのでは？
- 放送局長 当初は想定してなかったのではないか？
- (A) 委員 職員にも家庭があるので「出てこい、すぐ来い」では持たないのではないか。
- 放送局長 これからは「姫路市に大規模災害が起きたときに姫路市として情報提供をどうするか？」ということを考えていかないといけない。臨時災害局として姫路市の放送局に転換した場合は、姫路市の負担になるだろう。防災協定の時点では、そこまでの話が詰まっていない。
- (B) 委員 それはしっかり詰めておくべきだ。
- 放送局長 今は民間の放送局だが、臨時災害局になった場合は対応が異なる。
- 委員長 臨時災害局に移行する基準はあるのか？
- (A) 委員 防災訓練に合わせて、そのような訓練はできないのか？
- 放送局長 臨時災害局の設置は、行政の判断になる。
- 和歌山ではコミュニティFMがない地域で訓練を行った実績がある。
- 送信出力に関しても、現時点ではわからない。東北や北海道ならともかく、瀬戸内海沿岸は放送局が多く、増力は難しいと思われる。
- (A) 委員 熊本は臨時災害局になったのではないか？
- 放送局長 転換後も増力はしていない。
- (B) 委員 増力が許可されたとしても、装置が対応していなければどうしようもないのではないか？
- 放送局長 JCBAで数台保管しているものがある。メンテナンス会社経由で依頼することもできるかもしれない。
- (B) 委員 事前に様々な調査しておくべきだ。
- 放送局長 特殊な業界なので、確実に動いてもらえる業者を捕まえておく必要がある。割高であっても日ごろのメンテナンスを含めて依頼することで、万が一にも対応していただけるように考えている。
- (C) 委員 山崎断層地震に対する備えも必要。震度7が想定されている。
- 委員長 寺の古文書を調べていたら、安政、宝永の大地震の記録があった。それは南海トラフの影響だと思われる。

- 放送局長 FMゲンキがなぜ警報に対応しようとしているか？ということについて。いざという時に機能するためには日ごろからの訓練が必要だと考えて行っている。災害については、面的な広がりも考えられるので、加古川・三木のコミュニティFMとは日ごろから情報交換を行っている。しかし、各局の運営方針が異なるため、最大公約数的なものになる。FMゲンキの場合、深夜早朝は人を手配するため、初動がどうしても数十分後になってしまう。瞬時に情報が発信ができるネットや県域局に比べると劣ってしまう。しかし、人がそろえば、試聴にあった水位情報のように、他の放送局が取り上げることができないような細かい情報を伝えることができる。
- (B)委員 日ごろから交通情報でも細かい情報を流している。
放送局長 交通情報は500mを基準にしている。
- (C)委員 交通情報は非常に参考になる。
放送局長 リスナーからのフィードバックは残していきたいと考えている。生放送はそれなりにあるが、録音番組は難しい。しかし、番組の聴取状況はメールだけでは判断できない。
- (C)委員 79. 3MHzはどのぐらいの認知度があるのか？調査はできないのか？
放送局長 自社でアンケート調査を行っている。ただ、応募はがきを手にした人だけが対象となるので、当社にとって有利な数字になる。
- (C)委員 聴いている人は多いと思う。
放送局長 市の調査では60代、50代、40代の順に聞かれているようだ。A社は高年齢者、B社は若年層が多いようだ。
- (C)委員 電波の強さにもよるのではないか。
(D)委員 試聴番組のリクエストをしたい。火曜日12:30～「大学生が防災ラジオを始めました」、日曜日15:30～「ママの防災あれこれチャレンジ」。
放送局長 防災を前面に打ち出した番組は啓発になるが聴いていて面白くない。日ごろお金をいただいて、CMを流して、反響があってということが局の経営の基盤。このバランスをどうとるのか？ということが各局の課題ともいえる。
- (D)委員 防災といっても、さまざまな切り口がある。
放送局長 「公助」については行政はPRできるが、「自助」「共助」については、積極的に市から言いにくいともいえる。したがって、「自助」「共助」を別の立場からアピールできないかという提案をしているが、なかなか実現していない。
- (B)委員 局のレパトリーが広がるような番組を作るべきだ。

【事業報告等に関する意見】

午後3時、以上の報告・討議・検討を終了し、閉会した。

公表年月日 平成28年10月16日

公表内容 審議の概要

公表方法 事務所据え置き、ホームページ(<http://fmgenki.jp>)

自社放送内「FMゲンキからのお知らせ(平成28年10月16日午後4時30分)」

以上